

平成28年度

事業報告書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

I 公益目的事業の実施状況

1 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

(1) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する蔵書収集及び閲覧・貸出し

① 蔵書収集

書籍 141 点を購入。このほか個人及び団体からの 173 点の寄贈を受け付けた。

② 閲覧・貸出し

開館日時・日数、ならびに利用者数・利用申込者数・貸出し実績は以下の通り。

<開館日時・日数>

火・水・金曜日 12:00～17:00（第3水曜日は休館）

土・日曜日 09:30～17:00

開館日数 232 日

<利用状況>

利用者数 1232 人、利用登録者数 302 人、貸出し冊数 298 点

(2) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する文化講座の開催

文化講座「第25回アジア・アフリカを知る集い」を次の通り開催した。

講座題目：『ガンディーと日本』

講演者：内藤雅雄（東京外国語大学名誉教授、専修大学文学部教授）

開催日：平成29年3月26日

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：20人

(3) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する調査・翻訳の受託

法人及び個人からの依頼を受けて年間27件の翻訳案件を処理した。

(4) 三鷹市立図書館との協働事業関連

「三鷹市立南部図書館みんなみ」（当法人三鷹本部社屋1階。以下「南部図書館」という。）との協働事業として、以下のことに協力した。

- ① 南部図書館内に設けられた展示コーナーで行う郭沫若関連の企画展示に対して、郭沫若文庫の所蔵品を無償で貸し出した（前年度から継続実施）。なお、平成29年2月に一部展示資料の展示替えを行った。

② アジアの絵本の読み聞かせの会において、専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が母語で絵本を読むボランティア活動を行った（前年度から継続実施）。また、南部図書館サポーターグループ企画による交流イベント「クリスマス&正月リースをつくろう」に専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が参加。創作活動を通じてお互いの文化紹介などを行った（平成28年12月）。

③ 南部図書館の開館記念日行事「みんなみフェスタ」が平成28年11月23日に開催された。概要は以下の通り。

〈午前の部〉

子どもを対象にした行事「留学生とおはなし会」に専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が参加し、様々な企画に協力した。

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：子供27人、大人15人、計42人

〈午後の部〉

講演会の開催に協力した。

企画名：講演会『知ってびっくりこんな秘密が！～韓国人の名づけのルールとは？』

講演者：兼若免之（元東京女子大学教授）

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：52人

④ アジア・アフリカ図書館所蔵の図書を南部図書館で展示し、貸出希望の場合は南部図書館経由してアジア・アフリカ図書館で貸出手続きを行う取り組みを開始した（平成29年3月）。

(5) その他

① 「“詩”から見たアジア・アフリカ世界」に関する常設展示を企画、開催した。

展覧会名：『“詩”から見たアジア・アフリカ世界』

展示内容：当館所蔵の各種“詩”に関する書籍をパネルと現物展示で紹介

開催期間：平成28年9月1日から（平成29年6月まで継続開催）

開催場所：アジア・アフリカ図書館閲覧室（三鷹本部社屋2階）

② 韓国ポジャギ研究会によるポジャギ（韓国の伝統手芸）の展示会の開催を後援した。

展覧会名：『ポジャギ・韓国文化展』

開催期間：平成28年11月23日から同27日

開催場所：アジア・アフリカ図書館エントランスホール（三鷹本部社屋2階）

延来場者：107人

③ 当図書館の情報発信の媒体「アジア・アフリカ図書館だより」の復刊第2号を発刊した（平成28年9月）。

2 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

(1) 日本語ならびにアジア・アフリカの言語・文化・社会に関する教育

ア 学校教育法第124条に基づく専修学校専門課程の教育

留学生を対象とした日本語学科は1年・1.5年・2年の3コースを開講した（総定員140人）。平成28年度の日本語学科各コースの開講実績は以下の通り。

〈開講コースと入学・在籍者数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生や聴講生は除く
平成27年 4月 入学 進学2年コース(54期) 在籍者数10人(28年4月時点)
平成27年 10月 入学 進学1.5年コース(55期) 在籍者数28人(28年4月時点)
平成28年 4月 入学 進学2年コース(56期) 入学者数39人(うち編入17人)
平成28年 4月 入学 進学1年コース(57期) 入学者数42人(うち編入1人)
平成28年 10月 入学 進学1.5年コース(58期) 入学者数36人

〈卒業生数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生や聴講生は除く
平成28年度の卒業生数は70人

日本人向けのアジア系語学科は「韓国語学科」及び「日本語教育科」を新設。従来の「インド語学科」とあわせ3学科体制に改編し募集活動を行い、平成29年4月より「日本語教育学科」が開講することになった。

イ 専修学校の附帯教育及び別科

(ア) 個人を対象とした教育

一般社会人向けの教育、いわゆる生涯教育では、土曜コース語学講座（別科速成科昼間クラス）の他、少人数のニーズに応える特別講座や文化講座等を実施した。また今年度は専門課程日本語学科とは別に夏休みの時期を利用した日本語の短期語学留学クラスを企画し実施した。三鷹ネットワーク大学においては、例年実施している語学の体験講座の他、専門課程新学科開設を記念した特別講座も実施した。開講講座及び受講者数は以下の通り。

《土曜コース（別科速成科）》 ※ 受講人数は延人数

入 門 : タイ語、ミャンマー語 計5人
初 級 : タイ語、ミャンマー語 計10人

《特別講座》 ※ 受講人数は延人数

【語学講座】

アラビア語会話、アラビア語基礎構文、アラビア語初級会話、アラビア語講読、アラビア語文法復習、アラビア語総合、アラビア語入門・初級、アラビア書道、中国語入門～中級、韓国語上級、ロシア語中級 計173人

【文化講座】

ポジャギ体験講座 計14人

《日本語サマーコース》

期 間：平成28年7月～同8月 受講生数：20人

《三鷹ネットワーク大学における講座》

【語学講座】

フィリピン語 他 全8言語 (平成28年4月)
ミャンマー語 他 全8言語 (平成28年10月)

【教養講座】

韓国語と韓国の食文化 他 全2講座 (平成28年5月)
日本語教師になるための基礎講座 (平成29年1月)
ハンガルの読み方が分かる発音の手引き 他 全2講座 (平成29年2月)

(イ) 法人・自治体・国の機関を対象とした教育

官公庁からの派遣語学研修生を対象としたクラスを中心にアジア・アフリカ語の語学研修を下記の通り行った。

《語学研修》

ベトナム語1件、アラビア語1件、韓国語1件、英語3件 以上、5件を実施

ウ 在日外国人子弟に対する日本語教育及び学習支援

三鷹市内在住の外国人子弟対象の「日本語教育支援プログラム」を企画し募集を行ったが、応募者がなく今年度は実施を見送った。

(2) 学生寄宿舎の運営

専門学校アジア・アフリカ語学院に在籍する留学生の学生寮として、当法人所有施設「有朋館」(ゆうほうかん、全20室・基本入居可能人数23人)と「青雲公寓」(せいいうんこうぐう、全4室・基本入居可能人数8人)を使用し、運営した。平成28年度の年間稼働率は、有朋館、青雲公寓ともに約100%だった。このほか、近隣の民間賃貸物件38室も寄宿舎として利用した。

(3) その他

ア 市内の小学生との交流活動

例年同様、近隣の市立小学校と日本語学科留学生が交流する活動を行った(平成28年12月)。

イ 三鷹国際交流フェスティバルや地域の行事への参加

三鷹国際交流協会主催の「三鷹国際交流フェスティバル」に日本語学科留学生の有志が参加。専門学校アジア・アフリカ語学院のテントショップや各種イベントの運営に携わった(平成28年9月)。また、同留学生らは、自治会などが主催する地域の夏祭りや、近隣の市立小学校の父兄グループが主催する小中学生を対象とした交流イベントにも参加した。

ウ 日本語教育関連プログラム受講生の授業見学の受入れ

日本語教育関連プログラムを履修している大学生に対して、現場実習の一環として、日本語学科の授業を公開した(都下私立大学2校、計3回)。

3 国際交流事業（人材交流活動）

(1) アジア・アフリカ世界と日本の人々を対象とした異文化体験の提供

平成 28 年度は実績なし。

(2) アジア・アフリカ世界と日本の教育者・技術者などを対象とした人材交流の実施 ならびにこれに係る職業紹介

ベトナムにおける日本語教育の普及を目的に、ベトナム人日本語教員を対象として、専門学校アジア・アフリカ語学院での授業見学や教員交流などの教育プログラムを企画し実施した。

- < 研 修 者 > ベトナム人日本語教員 2 名（いずれも ICO Vietnam 勤務）
- < 研修日時 > 平成 28 年 9 月 5 日から同 9 日、09:00～15:00
- < 研修内容 > 日本語学科授業見学、日本語教授法、等

4 国際協力事業

(1) 外国人技能実習生受入れ活動

- ① 文京支所（東京都文京区西片）を拠点に業務を遂行した。受入れ実習生の講習場所は前年度同様、茨城県美浦村の研修センターを利用した。
- ② 平成 29 年 3 月末時点における本業務の概況は以下の通り。
受入れ技能実習生数：458 名
実習実施機関数：7 社 12 機関
提携送出し機関数：8 機関（中国 6、ベトナム 2）
- ③ 実習生を対象とした日本語力向上支援プロジェクトとして、日本語教師を派遣した日本語能力試験の受験アドバイスや実習実施機関内に実習生が自ら学べる「日本語倶楽部」を組織化した。また、研修センターにおける講習内容の見直しに着手した。

(2) 日本語教育普及活動

平成 29 年 1 月、ミャンマー連邦共和国シャン州の州都タウンジーに当法人のミャンマー支所として「SHAN JAPANESE CENTER（シャン・ジャパニーズ・センター）」を開設。本センターでは日本語教育普及に資する諸活動を行うべく事業を開始した。

Ⅱ その他の法人業務の状況

1 会員

平成 29 年 3 月末現在の会員内訳は以下の通り。

普通会員（個人）	15 名	
特別会員（法人、団体）	1 社	
賛助会員※（法人、団体）	6 社	※ 技能実習生受入れ企業が対象

2 その他

とくになし。

以上

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

平成28年度 事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」の該当なし。

以上